

みやこんじょ



No.54

発行日 2019年1月1日
 発行 独立行政法人国立病院機構
 都城医療センター
 宮崎県都城市祝吉町5033番地1
 TEL 0986-23-4111

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

一陽来復と猪突猛進

院長 冷牟田 浩司

あけましておめでとうございます。旧年中、関係各位の皆様から例年以上にご支援、ご厚情そしてご激励を賜り、心より御礼申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

いよいよ元号が変わります。平成最後のみやこんじょ新年ご挨拶になります。この文面は年末12月中旬に書き上げました。日中25℃に達するような異常な暖冬から、ここ数日来みるみるうちに寒風吹きさす真冬の日々になっています。まもなく冬至を迎えます。日照時間が1年で最も短いこの日は、世にいう陰極まり陽に帰る日、下降線から上昇への転換の「一陽来復」の日とされています。平成最後の一陽来復を越えて、亥にちなんで猪突猛進、上昇機運に乗ってゆきたいと心に誓っています。

昨年新春のみやこんじょの巻頭言は「波濤に向かう」でした。昨今、少子高齢化、目の前の2025年問題など日本の国の姿が変わる程の劇的な世情の変化です。医療界も富嶽三十六景の“波濤”のように、大波に立ち向かう小舟のごとく、大きく揺れ動いています。2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築へ向かってトップギアにはいりました。都城医療センターが地域の中で果たすべき役割は何か、立ち位置はどうあるべきか、考え続けた今年1年でした。

一昨年、都城医療センターも「公的医療施設等2025プラン」を作成し、2025年に向けての将来計画を明らかにしました。現在もその方針に乗っ取って運営を進めています。

従来、県西地区の地域周産期医療センターとして高度周産期医療と地域がん診療連携拠点病院として高度総合がん診療の二大領域を都城医療センターが担うべき急性期医療の2本柱として実践してきました。さらに救急告示病院、地域医療支援病院として地域の中核医療施設としての役割も果たしてまいりました。急性

期診療の2本柱は、今後も私たちの担うべき役割として、引き続き堅持してまいります。

一方で、地域医療構想では回復期病床数の不足も大きな課題として残されています。急性期医療の峠を越

えた回復期医療が必要な患者の皆さんの一日でも早い在宅療養、自宅復帰のために強化すべき医療資源の質と量は並大抵でないように思います。当院でも県西地域において高度周産期医療と総合がん診療という急性期医療の役割分担に加え、合わせて高機能で質の高い回復期治療に取り組むことも必要と考えます。

昨年3月に地域包括ケア病棟(40床)を開設しました。都城医療センターには急性期医療領域で長年培った経験と人財があります。それを生かして地域包括ケア病棟(在宅復帰を第一の目標とする意味で在宅サポート病棟と名付けました)では運動器リハ、がんリハ、脳血管疾患リハ、呼吸器リハなどの多彩なりハビリテーションを十分取り入れ、急性期治療、急性期からの早期脱却、そして在宅療養・自宅生活復帰へ向けた一連の診療の流れを構築して参ります。近い将来、心血管リハビリテーションも導入するように計画しています。

109年の歴史を持つ都城医療センターは、建物が建て替わっても、医療制度・政策がどう変わろうと、経営がどんなに厳しかろうと、患者の皆さんに「この病院で診てもらってよかったと喜んでもらえるような温かい病院」であり続けたいと思います。その初心の志を忘れないように、職員一同が力を合わせて地域に貢献できる都城医療センターでありつづけたいと思います。

本年もよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



消化器病センターの紹介



消化器病センター長
駒田 直人



消化器内科
藤原 利成



消化器内科
土肥 容子

2015年5月に消化器病センターが開設され、早いもので約3年半が経過しました。開設当初は1名でのスタートでしたが現在は3名体制となり、消化管疾患を専門として診療にあたって来ましたが、地域の先生方から多くのご紹介を頂くようになり大変感謝しています。

上部消化管検査ではこれまで同様、狭帯域光観察（NBI：Narrow Band Imaging）を用いた胃癌・食道癌の早期発見、下部内視鏡検査では拡大内視鏡を用いた大腸腫瘍の診断も積極的に行い、おかげさまでEMR（内視鏡的粘膜切除術）やESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の件数も増加してきていますが、今後も患者さんにとってより低侵襲な治療を目指していきたいと考えています。

また、当地域に於きましてもこれまでの透視検査に加え、内視鏡を用いた胃癌検診がいよいよ始まろうとしており、今後はますます内視鏡診断・治療が要求される時代を迎えるものと考えられます。このような背景の中、これまで同様藤原を中心とした炎症性腸疾患とともに癌診療のさらなるステップアップを目指して行きます。

栄養療法につきましてもNST（Nutrition support team）専門療法士教育認定施設としてこれまで2回の40時間研修を終えましたが、毎回小林や鹿児島県よりの参加者も多く需要の高さを感じているところです。日本は世界に名だたる長寿国であり、施設や在宅での経管栄養管理が必要な患者さんも年々増加してきていますので、胃瘻造設やメンテナンス・栄養管理等につきましてもどうぞお気軽にご紹介下さい。

当センターでは今後も消化管専門センターとしてより良い医療を提供するため、地域の中核病院として他基幹病院やご開業の先生方のご協力を得ながら努力し、センターの拡充を図って行きたいと思っていますのでご指導、ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

（消化器病センター長 駒田 直人）

都城市で日本医療マネジメント学会宮崎県支部学術集会を開催します！

新年早々ですが、2月2日(土)、都城市ウエルネスプラザにて日本医療マネジメント学会第12回宮崎県支部学術集会を開催いたします。

日本医療マネジメント学会は臨床の専門領域の学会ではありません。病院の機能が確実に発揮され、質の高い医療を提供するための各施設の知恵や工夫を互いに披露し合って討議する、いわゆる病院管理マネジメントの向上のための集会です。

日本医療マネジメント学会(本部：熊本市)には全国津々浦々の都道府県支部があり、様々な支部活動が行われています。宮崎県支部では平成19年から年1回、学術集会を開催しています。これまで県立宮崎病院、県立日南病院、古賀総合病院、都城医療センター、潤和会記念病院、宮崎東病院、宮崎大学附属病院、江南病院、そして古賀総合病院が担当していますが、今回、都城医療センターが担当させていただきます。現在、病院職員が協力して準備の真っ最中です。

団塊の世代が後期高齢者に突入する2025年問題を目前にして、医療施設には今までの医学医療技術を繰り返すだけでは超えられない壁が迫ってきました。医療に従事する者、患者の皆様、自治体や政府など総出で新しい地域の在り方を作ってゆかねばなりません。

まもなく導入される地域包括ケアシステムをにらんで、今回のメインテーマとして「これからの医療連携の在り方」を改めて考えてみることにしました。

都城市では鹿児島県との県境に接する医療圏に属し、医療圏内での役割分担と協働作業と共に医療圏を乗り越えた柔軟な医療連携の体制が重要であるように思います。都道府県の地域医療構想が出そろって各医療圏で調整会議が進められ、その地域独自の医療体制の構築に向けての調整が進んできていますが、それに加え、近隣地域を含めた地域に見合う連携の在り方を改めて考えることは意義あることと思います。

特別講演では産業医科大学の松田晋哉先生から豊富なDPCデータとご経験から宮崎県の各医療圏の情勢分析をお教えいただき、医療圏内と近隣医療圏間の連携について示唆をいただけるものと思います。

また、山口育子様からは医療従事者と患者の心の連携のお話がうかがえると思います。

ランチョンセミナーのWマコト様は宮崎県ご出身であり、外から目線で今の故郷と故郷での医療がどのように映っているかお教えいただけたと思います。

新屋 俊明先生には歯科医の立場から歯科と医科の連携のご経験についてお話しいただきます。

いずれも、これからの地域・コミュニティの中の医療連携を考えてゆくために貴重なご示唆をいただけたと思います。

しかし、本集会は本来、医療現場での日常業務の中で皆さんが戸惑っていること、悩んでいることを忌憚なく出し合ってもらい、肩をこらずに意見交換する場であることを忘れてはなりません。聴講するだけでなく、積極的に討議に参加していただき、実り多き集会になることを望んでいます。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

日本医療マネジメント学会第12回宮崎県支部学術集会会長
都城医療センター 院長 冷牟田 浩司

緩和ケア研修会を開催しました



地域がん診療連携拠点病院として、毎年開催しております緩和ケア研修会を10月21日に行いました。ファシリテーターとして院内からはがん診療統括部の加治屋医師と岩崎医師、院外から聖路加国際病院緩和ケア科の林章敏医師をはじめ、宮崎大学医学部附属病院精神腫瘍学の船橋英樹先生や藤元総合病院在宅療養科の馬見塚勝郎先生にご指導いただきました。今回は10名の医師が参加され、がん告知の経験が少ない先生も医師役や患者役を真剣

にロールプレイされ、実施後は積極的に意見交換するなど充実した研修が行われました。今年度から研修方法が変更され、事前にe-learningを修了後、一日の集合研修で講義やロールプレイ、グループワークが行われました。また、今回から医師だけでなく看護師や薬剤師、栄養士などメディカルスタッフも研修受講可能となり修了証書が発行されるようになりました。しかし、残念ながら今年度は医師以外の参加申し込みはありませんでした。

多職種が揃って緩和ケア研修を受けることで、それぞれの専門職種が意見交換する機会や訓練にもなるというメリットがあります。来年度は広報活動を幅広く行い、院内外から多数の医師やメディカルスタッフに参加していただきたいと思います。この研修会をきっかけに最新の緩和ケアの知識を吸収していただき、地域での緩和ケアの実践や医療者同士の連携を深める機会になればと考えます。来年度、緩和ケア研修会に一人でも多くの方が参加いただけることを心より願っています。

(緩和ケア専従看護師 がん性疼痛看護認定看護師 児玉みゆき)

新任医師紹介



氏名：中川 緑

勤務部署：小児科

趣味・特技：手芸

自己PR：自分自身子どもを持つ母としての視点も生かしながら、小児科診療に携われたらと思います。

着任にあたっての抱負：都城近辺にお住いの子どもたちとご家族の笑顔が見られるように頑張ります。



氏名：明利 聡瑠

勤務部署：小児科

趣味・特技：読書、NFL観戦

自己PR：日南から赴任してきました明利と申します。医師6年目の30歳です。都城で

働くのは初めてで緊張しておりますが、温かいスタッフの皆さんに支えられて日々診療しております。

着任にあたっての抱負：都城の子供たちの健康と笑顔を守れるよう、そして少しでもご家族の不安を和らげることが出来るよう、日々努力して参ります。宜しくお願い致します。

看護学校祭

今回、『共働～個性を生かして～』をテーマに、企画・運営をし、学校祭を開催させていただきました。来場者の人数は78名、健康チェックは65名、献血は51名、アロママッサージは78名、オープンキャンパス参加者は中学生・高校生9名、保護者8名でした。また、模擬店の売上金は118,600円、バザーは31,585円であり、バザーの売上金は全額(31,585円)、赤い羽根募金に寄付致しました。

1日目は学習発表会を行いました。「豊かな人間関係を築くには」というテーマで、これまでに経験した医療現場や学校生活に焦点を絞り、コミュニケーションをとる上で、困ったことやうまくいったことを3学年で話し合いました。さまざまな人の体験談を聞き、各学年の視点が違い、活発な意見交換となりました。そこで、社会人・看護師としてよりよい人間関係を育むための改善点を考えることができました。また、看護に対する考え方について共有し、それぞれの看護観を深める機会になったと思います。

2日目は各部門に分かれ、献血・健康チェック・模擬店・ステージ、アロママッサージ・バザーを行いました。献血や健康チェック、アロママッサージには多くの地域住民の皆様に参加していただき、目標としていた来場者数を達成することができました。

ステージでは、楽器演奏や歌唱、ビンゴゲームなどを行い、来場された方々と楽しい時間を過ごすことができました。また、バザーでは病院内の職員の方々にも商品をご提供いただき、模擬では毎年好評の焼きそばやポトフを販売し、多くの方々とふれあうことができました。

今回は、オープンキャンパスも同時に開催することで、中学生や高校生の皆様に参加していただき、都城医療センター附属看護学校の雰囲気をお伝えし、看護学生と共に看護技術を体験していただきました。学校祭のさまざまな企画をとおして、患者・家族の皆様や病棟スタッフ、地域住民の皆様、講師の皆様などによる多くのご協力や支援に対し、日頃の感謝の気持ちを伝えることができました。ありがとうございました。

(学校祭実行委員長 芦谷 七海)

健康
チェック



アロマ
マッサージ



模擬店



ステージ
発表



オープン
キャンパス



バザー



誓いの式

11月16日(金)に第72回誓いの式を厳かに挙行了いたしました。第72回生40名は、来賓の皆様、保護者、病院・学校職員に見守られ、自分たちの誓いの言葉を斉唱し、看護への決意や思いを新たにしました。

来賓として、都城市副市長 岩崎透様、都城保健所 総括次長 川越正敏様、宮崎県看護協会会長 常務理事 橋満升子様、都城看護専門学校 校長 楢原進一郎様、同窓会白埴会会長 平井良子様、同窓会白埴会副会長 行田典子様にご臨席いただきました。

今後の計画としては、1月より基礎看護学実習Ⅰ(日常生活援助実習)が開始となります。初めて一人の患者を受け持ち、患者のニーズに応じた日常生活を実施することを学びます。

患者のことを第一に考え、信頼される看護師になるために、仲間と共に切磋琢磨し、誠心誠意看護に向き合っていきます。どうぞご指導よろしくお願いいたします。

なお、以下の内容は誓いの式を終えた学生の学びや課題レポートから、一部抜粋したものを掲載いたします。

誓いの式の係となり、みんなのまとめ役として前に立ってきました。誓いの言葉をクラスみんなが出してくれたキーワードをもとに考えたところまではスムーズに進んだものの、練習をなかなか始められずにいました。しかし、ナイチンゲール誓詞を日に日に覚えていくうちに、意味を考えるようになり、また、私はどんな看護師になりたいのかも改めて考えさせられました。

当日、緊張感のある雰囲気の中でチーフを受け取り、ろうそくに火が灯った時、気持ちが入れ替わっていく気がして、ナイチンゲール誓詞・誓いの言葉を言っている時は清々しい気持ちでした。

式典が終わって、両親から「看護師の道を選んでよかったね、頑張りなさい」と声をかけられた時は、嬉しい気持ちと自信に満ちた気持ちでした。私になりたい「向上心を持ち、日々学び続ける看護師」の夢を叶えて、お世話になった人、背中を押してくれた人に恩返ししたいと思います。

(72回生 上村 優)



誓いの式を終えて思うことは、入学して7ヶ月が経った今、改めて自分の目指す看護師に1歩ずつ近づいていかなければならないということです。慣れない環境と初めて会う人たち、電車での通学、90分間の授業など、今までとは全く違う生活に戸惑いながらも懸命に慣れようとしていました。精神的にも緊張している状態が続き、勉強に時間をかけることができなかった時もありました。そんな中でも、この仲間たちと支え合って学習していくのだと思うことができました。

自分の目指す看護師像に近づくためには、まずは基礎知識を習得することが必要だと思います。そのためには、予習や復習など、地道に学んでいくことが一番の近道だと思います。

誓いの式で、「私たちに関わる全ての人に感謝し、日々の学習に努めます」と誓いました。自分の夢を応援してくれた両親、授業でたくさんのことを教えてくださる先生方、これからの実習でお世話になる患者・看護師の皆様のためにも、学ぶ姿勢や責任感を持ち、よりよい看護ができるように学習に努めます。

(72回生 坂本 千乃)



第72回国立病院総合医学学会に参加して



平成30年11月9日～10日の2日間、神戸で開催された第72回国立病院総合医学学会に参加しポスターセッションで発表しました。演題は「看護師の栄養管理に関する意識調査」で、看護師の認識は栄養管理よりも治療を優先する傾向にあることが分かり、看護師が主体的にNSTと連携を図ることが課題であることを発表しました。会場からは質問もあり緊張しましたが、無事に発表を終えることができました。学会は2日間かけて3つの会場で開催されており、これだけ多くの人が毎年研究に取り組んでいることに驚きました。各ブースをまわりながら他の研究もたくさん見ることができ、同じ看護師として興味深い研究や他職種が取り組んでいる研究についても学ぶことができ、よい経験となりました。今回の経験を活かし、日頃疑問に思っていることをそ

のままにせず目的意識を持って看護を実践していきたいと思います。

学会に演者として参加するのは今回初めてでしたが、会場では当院の他部署のスタッフや、応援に駆けつけてくれた師長さん方にとっても勇気づけられました。自分が行った看護研究を参加者に伝えるようにポイントを絞ってまとめることは難しかったですが、今回「ベストポスター賞」を受賞することができました。今回学会に参加するにあたり研究に協力してくれた病棟スタッフや、支援して頂いた方々に心から感謝いたします。

(看護部3病棟 坂元 美寿々)

11月9日、10日に神戸市で開催された第72回国立病院総合医学学会で発表を行いました。平成30年度の診療報酬改定において、抗菌薬適正使用の観点から薬剤耐性対策を進めるために、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）の取り組みを評価する抗菌薬適正使用支援加算が新設されました。

当院でも抗菌薬適正使用支援加算の算定を4月より開始し、私自身も4月に当院へ赴任した際よりASTの一員として業務を始めました。

今回は、今までの活動内容についてまとめ、「抗菌薬適正使用支援加算算定に伴う当院ASTの取り組み報告」についてポスター発表を行いました。

新設されたばかりの加算のため、どのような業務を行うことが望ましいのか悩む部分も多いのですが、AST活動について発表をしている他施設のポスターも見ることができ、自分たちの活動をよりよくするための学びもたくさんありました。

患者さんがより適切な治療を受けることができ、薬剤耐性対策を進めるためにも今後もチームのメンバーと共に業務を行っていききたいと思います。

(薬剤部 医薬品情報管理主任 平峯 侑恵)



外来診療科別週間担当医当番表

独立行政法人
国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30 ~ 11:00

【2019年1月1日】

診療科名等			月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
内 科 ※2	初診	血液		前田 宏一	休 診			
		肝	加藤 順也					
	再診		前田 宏一	加藤 順也	前田 宏一 加藤 順也	前田 宏一 加藤 順也 高 智徳	前田 宏一 加藤 順也	
循 環 器 内 科			阿南 隆一郎	阿南 隆一郎	阿南 隆一郎		阿南 隆一郎	
呼 吸 器 内 科		初診		今津 善史	今津 善史		今津 善史	
		再診	今津 善史			今津 善史		
呼 吸 器 外 科		初診	手 術 日	巻幡 聰 巻幡 聰 加藤 文章	手 術 日	巻幡 聰	手 術 日	
		再診				巻幡 聰 文章		
小 児 科	午前	1診	中川 緑	柳邊 秀一	明利 聡瑠	片山 太輔	裴 孝俊	
		1診	柳邊 秀一	中川 緑	片山 太輔	明利 聡瑠	柳邊 秀一	
	午後	2診	明利 聡瑠	裴 孝俊	裴 孝俊	中川 緑	片山 太輔	
		3診			シナジス外来 (8月～3月)			
外 科		初診	緒方 健一	手 術 日	田中 洋	手 術 日	緒方 健一	
		再診	田中 洋		森永 剛司	後藤 又朗	杉原 栄孝	
乳 腺 専 門 外 来							岩瀬 弘敬 (第四金曜日)	
消化器病センター		初診	藤原 利成 土肥 容子	駒田 直人	藤原 利成	駒田 直人	土肥 容子	
		再診	駒田 直人	藤原 利成	駒田 直人	藤原 利成	駒田 直人	
N S T 外 来				駒田直人 (第二・四火曜日14:00～16:00)				
整 形 外 科		初診		吉川 教恵 上通 一師	手 術 日	上通 一師 黒木 智文	吉川 教恵 上通 一師	
		再診	吉川 教恵 黒木 智文			吉川 教恵		
リ ウ マ チ 科			吉川 教恵 (再診のみ)	吉川 教恵 (再診のみ)		吉川 教恵	吉川 教恵 (再診のみ)	
泌 尿 器 科		1診	手 術 日	山崎 丈嗣	山崎 丈嗣	慶田 喜文	山崎 丈嗣	
		2診			慶田 喜文	川上 福元 一誠 渉	慶田喜文	
皮 膚 科 ※3				中山 文子 (午前)		中山 文子 (午前)	中山 文子 (午前)	
産 婦 人 科		初診	徳永 修一	古田 賢	徳永 修一		古田 賢	
		再診	後藤 夏美	徳永 修一	古田 賢	古田 賢	徳永 修一	
耳 鼻 咽 喉 科		一般	外山 勝浩 津曲 省吾	外山 勝浩 津曲 省吾	外山 勝浩 津曲 省吾	外山 勝浩 津曲 省吾	手 術 日	
		難聴外来	津曲 省吾 (14:00～17:00)					
放 射 線 科		放射線治療	加治屋 芳樹	加治屋 芳樹	加治屋 芳樹	加治屋 芳樹	加治屋 芳樹	
		画像診断	日野 祐一	日野 祐一	日野 祐一	日野 祐一	日野 祐一	
歯 科 口 科		一 般		田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	手 術 日	
		ペインクリニック※6						横山 幸三 (午後)
		障がい者歯科						
が ん サ ポ ー ト 外 来 ※4							岩崎 竜馬	
緩 和 ケ ア 外 来 ※4							林 章敏 (第四金曜日)	
特 殊 外 来			マザークラス (第二土曜日 ・第四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来	ストーリー外来(午後) 母乳外 来 遺伝カウンセリング外来 (14:00～15:00)	

【その他の特殊診療】

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内 視 鏡 セ ン タ ー	上部消化管	上下部消化管	上部消化管	上下部消化管	上部消化管
	下部消化管	下部消化管	下部消化管	下部消化管	下部消化管
透 視 撮 影 (胃)	外 科		外 科		
骨塩ドック(骨粗鬆症検査)【予約制(14:00以降)】	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
 ※2 医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。
 ※3 皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時30分~13時となっております。
 ※4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前に相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
 ※5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
 ※6 ペインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会